

ジグソー法を活用して生徒が教え合う授業

—江戸川区立中学校教育研究会として同区の教諭 100 名も視察—

令和 7 年度中学校武道授業（少林寺拳法）指導法研究事業（授業視察）



一斉に突きなど行い、運動量も確保

令和 7 年度中学校武道授業（少林寺拳法）指導法研究事業（主催＝日本武道館・少林寺拳法連盟・日本武道協議会、後援＝スポーツ庁）が、11月5日、研究者5名、事務局1名が出席して東京都江戸川区立小岩第三中学校で行われ、同校 1 年生33名による全9時間のうち5時間目の少林寺拳法授業の視察と研究協議を実施した。本事業は、江戸川区の体力向上委員会と協力・提携して行われた江戸川区立中学校教育研究会（保健体育部）の授業研究に同席する形で実施。当日は本研究者5名とともに同区の保健体育科教諭約100名が視察する中、同区小岩第三中学校の中村優一主幹教諭が授業を実施した。授業は、少林寺サーキット、じゃんけんゲームやタッチゲームの後、ジグソー法（テーマや課題について、グループ内で役割分担をして調べ学習を行い、自分が調べた内容を教え合う）を活用して天地拳第一系と柔法の切抜、上膊抜、小手抜を学習した。生徒たちは技の担当部分のポイントを確認し、グループ内で教え合い、相手にポイントが伝わると生徒の教示も熱気を帯びた。中村教諭による少林寺拳法の特徴を踏まえながら、生徒が自然と主体となる授業を目の当たりにし、教諭たちは終始感心した様子。他の武道種目にも活用できる箇所がたくさんあるなどの声もあがっていた。授業後の研究協議では研究者から「中村教諭による素晴らしい『伝わる』授業を見せてもらった。今後の指導法に生かしたい」などの声が寄せられた。

◇出席者一覧

- ・研究者：中島正樹（中学校武道授業推進委員会委員長、全国中学校少林寺拳法連盟副会長）
安田智幸（中学校武道授業推進委員会委員、全国中学校少林寺拳法連盟理事長）
小井寿史（中学校武道授業推進委員会委員）・桑島亜紀（中学校武道授業推進委員会委員）
中村優一（中学校武道授業推進委員会委員）/事務局：村瀬晃啓（少林寺拳法連盟 東京事務所所長）

授業実践



技のポイントを教え合う生徒たち



少林寺拳法の礼（合掌）を行う



蹴りの一斉指導



少林寺拳法の教えも提示



生徒の教え合いを視察する小井研究者（右）



およそ 100 名の教諭が授業を視察した

授業後



教諭たちも少林寺拳法を体験



研究協議では研究者から授業の感想が述べられた